

2025 年 10 月 19 日 聖霊降臨後第 19 主日 ルカ 18: 1～ 8「絶えず祈る」

今日の聖書日課の三つそれぞれが、共通して語っているのは「離れない」という事の大切さです。第一日課の創世記 32 章では、ヤコブが神さまと組み合い、格闘して、腿の関節がはずれても、その手を離さなかった壮絶な話が語られます。

戦いには間合いがあります。打撃のどれ程強い選手でも、組み付かれると攻撃が難しくなります。神さまですら懷に食らい付く相手には、

「もう去らせてくれ。夜が明けてしまうから」

と願うという、おそるべき事が起こります。

すべてを創られた神さまなのですから、一瞬にしてヤコブを消し去ることなど簡単です。けれど神さまはヤコブの命を奪う事を、「義」とはされませんでした。

名前を尋ねて「イスラエル」という新しい名前を下さいます。それはヤコブに、「イスラエルという新しい命を与えられた」という事です。神さまの懷に飛び込んで、両手を離さず組み付いた彼は、新しい命を与えられました。しかし彼は、腿を痛めて、足を引きずる障がいを負います。

第二日課のテモテへの手紙 2 でも、パウロは愛する弟子に

「だがあなたは、自分が学んで確信したことから離れてはなりません」。

と忠告します。テモテも師であるパウロを深く愛していました。だからパウロは心から、愛弟子に向かって命じます。

「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい」。

毎週私はルーテル学院大学、昼の礼拝に参加しています。必ず短い聖書の個所が読まれて、メッセージがあります。そこでチャプレンの方々の説教や、教員からのメッセージが行われます。また学生からの素晴らしい証しがあります。

今週も 4 年生のチャプレンスタッフから、驚くべきメッセージが宣べ伝えられました。個人情報が含まれているので、詳細は申し上げられませんが、コロナ下の中で、様々な困難に出会いながらも、格闘して来た学生生活が語られました。

そしてこのメッセンジャーは、彼を支えて来られたご家族や、学校関係者たち、大切な友人や恋人に、心からの感謝を伝えました。さらに自分に今、与えられている、肉体的なチャレンジに対しても、これを受け入れて歩むと宣言します。

礼拝メッセージに対して、皆が思わず拍手を送りそうになる、迫力ある証しが語られました。そこには、「たとえ何があっても、決して希望は失われない」と信じる、メッセンジャーの強い信仰がありました。

今日のルカ福音書 18 章で、イエスさまの語られるたとえに「神を畏れず人を人とも思わない裁判官」が現れます。この裁判官は、この世の中では最強です。絶対的な権威の座にある者が、何物をも恐れないとすれば、全ての決定事項は、彼の思い付きによって左右されます。これを独裁制と言います。

いまの世界は、当にこのような独裁者によって、右に左にと揺れ動いています。「弱くされた者たちよ、あなたは希望を失ってはいけない」イエスさまは私たちを励まされます。

「やもめ」とは、後ろ楯となる連れ合いを失った女性です。強い家父長制と男性優位の社会の中で、女性はその家の主人である男の財産でした。そこには『女性の人権』という概念はまったくありません。財産はその所有者にすべての決定権があります。どんなに美しく価値ある宝石も、『私を守ってください』と願うことはありません。

けれど「執拗に足を運んで『相手を裁き、私を守ってください』と願い続けるならば、最強の独裁者ですら、きっと根負けする」。このようにイエスさまは、私たちに教えられます。

ではどうして、この女性のように諦めずに通って、同じ事をくり返し願う事で、裁判官は彼女の望みを聞き入れたのでしょうか。それはこの人が何度も何度も、ひっきりなしに来ることを恐れたからです。

けれど私たちは、なかなかこの女性のように、自分の思いをくり返し何度も、はっきり願い続けることが出来ません。何度言っても全く聞いてもらえないと、がっかりして気落ちしてしまいます。遂には自分が恥ずかしくなります。

しかしそれではなりません。正義は必ず行われます。神さまが不法をいつまでも見逃され続けることはありません。神さまを信じる者たちは、不正を見逃さず、世界に訴え続けなければなりません。*

2025 年 10 月 8 日に、アメリカ福音ルーテル教会の主教団から教会に向け、書簡が送られました。その冒頭には次のように書かれています。

＜私たちアメリカ福音ルーテル教会(ELCA)の主教たちは、いま国際的にも国内的にも緊張が高まるこの時にあって、明確な信念をもって皆さんに書き送ります。私たちの信仰は、イエスが立たれるその場所に、イエスと共に、そしてイエスのために立つことを私たちに促します。すなわち、社会がしばしば排除し、消し去ろうとし、価値を貶めようとする人々と共に立つことです。＞

そしてこの手紙の真ん中に、愛の定義が置かれています。

- － 愛は、すべての人の尊厳を守ることを求めます。
- － 愛は、抑圧される人々への正義を求めます。
- － 愛は、教会が神の多様で命を与える共同体を映し出すことを求めます。
- － 愛は、たとえ意見が違って、敬意をもって聞き、語り、行動することを求めます。
- － 愛は、神の正義と平和の国が必ず実現するという希望を信じ続けることを求めます。

私たち日本ルーテル教団の各教会も、イエス・キリストの愛に支えられて、抑圧された人たちと共に、キリストの自由に生きる人たちを守る愛の砦として、この絶望的な世界に、立ち続けたいと切に願います。「わたしはここにいます」その叫びを絶やすこと無く、世界に届けていきたいと祈り続けます。